がばがわ 椛川ダムの検証に係る検討

結果報告書 正誤表

平成 23 年 11 月 香 川 県

椛川ダムの検証に係る検討結果報告書 正誤表

章	ページ	箇所	誤						E E							
4	P4-6	図 1 利水計算結果							(誤記)							
		 (椛川ダム利水基準							・ 渇水対策容量の表示位置の記載ミス							
		年策定計算)							 ・ 渇水対策容量決定年の記載ミス(1994年→1996年) 							
		十宋之司异/	1000 1000						図 1 利水計算結果 (椛川ダム利水基準年策定計算)							
7. 5	P7-21	流水の正常な機能の 維持に関する代替案 の詳細検討					(誤記)・ 評価軸 コストにおける維持管理に要する費用 現在価値化した維持管理費の記載 ミス (30.7億円→2.9億円)									
			評価軸	評価の考え方	①現行計画(椛川ダム)	(2)ため池	③海水淡水化 ・海水淡水化により25,000m³/口(貯留	評価軸	評価の考え方	①現行計画(椛川ダム)		②ため池	Ne is strain	③海水淡水化		
		評価軸ごとの評価		●確保水量とその確実性	・貯留容量5,540干m ³ を確保 ・利水安全度1/10	○ ・貯留容量5,540千m³を確保	「カイルペパルによって2000mm と 10月 日 容重5.540千m 相当)を確保 ○ 取水量の変動に対して対応が困難 ・天候等に左右されず安定的に確保可能		●確保水量とその確実性	・貯留容量5,540千m ³ を確保 ・利水安全度1/10	〇 ・貯留容量5,54	40千m³を確保	容量5,540 ・取水量の	K化により25,000m ³ /日(貯留)千m ³ 相当)を確保)変動に対して対応が困難 こ左右されず安定的に確保可	Δ	
		(目標・コスト)		●段階的にどのように効果が確保されていくのか	れればダム完成前にも取水可能	・ため池掘削工事完了後(未定) ・3池が改修対象であり、3段階での効果 発現となる。	△ ・海水淡水化施設完成後(未定) ・段階的に施設の整備が可能		●段階的にどのように効果が確保されていくのか	・10年後にはダム完成 ・取水地点下流の利水者の同意が得ら れればダム完成前にも取水可能		工事完了後(未定) 象であり、3段階での効果	□ ·海水淡水 ·段階的に	<化施設完成後(未定) ニ施設の整備が可能	0	
			目標 (必要水量等)	●どの範囲でどのような効果が確保されていくのか (取水位置別に、取水可能量がどのように確保されるか)	・椛川ダムより下流の正常流量を確保 可能	水が必要	△ ・海から椛川ダム合流付近まで送水が △ 必要	目標 (必要水量等)	●どの範囲でどのような効果が確保されていくのか (取水位置別に、取水可能量がどのように確保されるか)	・椛川ダムより下流の正常流量を確保 可能	○ ・ため池から椛 水が必要	川ダム合流付近まで送	△ ・海から椛 必要	川ダム合流付近まで送水が	Δ	
				●どのような水質の用水が得られるか	・香東川より取水した原水(水質基準を 満足しており水道用水の原水として良 好)	・ため池に流入し、貯留された水(水深)が浅いため滞留時間が長いとアオコが発生しやすく水質の変動は大きい)	△ ・海水(海水淡水化施設で膜処理が必要な水) ○		●どのような水質の用水が得られるか	・香東川より取水した原水(水質基準を 満足しており水道用水の原水として良 好)	が浅いため滞留発生しやすく水	、し、貯留された水(水深 留時間が長いとアオコが 、質の変動は大きい)	△ ・海水(海戸要な水)	水淡水化施設で膜処理が必	0	
				評価軸としての評価	海水淡水化に比べて、取水の安定性は 劣るが、必要開発量の確保が可能であ る。 早期に効果発現が見込まれる。	他2案に比べて取水の安定性が劣る。 効果の発現は可能(地権者等との協議 に時間を要する可能性あり)	他の2案と比較して取水の安定性に優 ム れるが、取水量の変動に対しては対応 が困難である。		評価軸としての評価	海水淡水化に比べて、取水の安定性は 劣るが、必要開発量の確保が可能であ る。 早期に効果発現が見込まれる。	他2条に比へし	取水の安定性が劣る。 可能(地権者等との協議 る可能性あり)	他の2案と れるが、取 が困難で	比較して取水の安定性に優 な水量の変動に対しては対応 ある。	Δ	
				評価の考え方	①現行計画(椛川ダム)	(2)ため池	③海水淡水化	評価軸	評価の考え方	①現行計画(椛川ダム)		②ため池		③海水淡水化		
				●完成までに要する費用はどのくらいか	・ダム残事業費 (コストアロケ56.1%) 180.6億円	・ため池貯留施設 291.0億円	× 海水淡水化施設 141.7億円 O	oT WIFE	●完成までに要する費用はどのくらいか	・ダム残事業費 (コストアロケ56.1%) 180.6億円	・ため池貯留 Δ 291.0億円	施設	× 141.	水化施設 7億円	0	
					180.6億円 ・椛川ダム 13百万円/年 計 13百万円/年	291.0億円 ・貯留施設 147百万円/年	141.7億円 ・施設管理費 2.686百万円/年			180.6億円 ・椛川ダム 13百万円/年 計 13百万円/年	291.0億円 ・貯留施設	147百万円/年		理費 2,686百万円/年	+	
			コスト	●維持管理に要する費用はどのくらいか	50年分の維持管理費を現在価値化 30.7億円 (13百万円/年×50年×0.4296)	O 50年分の維持管理費を現在価値化 31.7億円 (147百万円/年×50年×0.4296)	計 1.290百万円/年		●維持管理に要する費用はどのくらいか	50年公の維持管理費を現在価値化 2.9億円 (13百万円/年×50年×0.4296)	31.7億円	管理費を現在価値化 円/年×50年×0.4296)	△ 50年分の# 577.04	計 1,290百万円/年 維持管理費を現在価値化 億円	×	
				●その他の費用(ダム中止に伴って発生する費用等) はどのくらいか	2.9億円 該当なし (31.7億円 ・現場の現状回復(地質調査坑の閉塞等) 0.7億円 ・利水者から徴収した負担金還付	577.0億円 ・現場の現状回復(地質調査坑の閉塞等) 0.7億円 △ ・利水者から徴収した負担金還付 △	コスト	●その他の費用(ダム中止に伴って発生する費用	2.9億円 該当なし	0.7億円	回復(地質調査坑の閉塞等)	577. 0f ・現場の3 0. 7f	見状回復(地質調査坑の閉塞等)		
				●費用の合計	0.0億円 183.5億円 C	10.2億円(H21までの利水負担分) 10.9億円	10.2億円(H21までの利水負担分) 10.9億円 Δ 729.6億円 ×		等) はどのくらいか ●費用の合計	0.0億円 183.5億円	10.2億円 10.9億円 333.6億円	(H21までの利水負担分)	10. 21 10. 91	億円 (H21までの利水負担分) 億円	+ -	
				評価軸としての評価		〇 椛川ダムに比べややコストで劣る	△ コストは3楽の中で最も高い ×		■ 対用の言計 評価軸としての評価	3案の中で最もコストが小さい。	O 椛川ダムに比べ			案の中で最も高い	×	
			•													